**演習事例**

**バイジー：イワキさん（相談業務１年目）女性 28 歳**

**イワキさんは現場で直接支援を担当していたが相談支援事業所に配属され、今年度から相談支援専門員を担うことになった。**

**現場の経験を生かし、利用者・居住者の立場と視点からから課題の解決を図ろうと努力し、精力的に仕事をこなしていた。ところが、最近何故か元気がありません。 上司のフクシマさん（あなた）がそれとなく「どうしたの？」と尋ねると「ゆうじさんの地域移行の件がなかなかうまく進まない」と話し始めました。「先日の支援会議でゆうじさん本人、ご家族、市の担当職 員等が集まり話し合いを持ったのですが、それ以降ゆうじさんが私を避けるようになってしまったのです。」「私としてはそうなるような原因が見当たらないのに、どうしてそうなったのかいろいろと悩んでいます。」と話があった。ゆうじさんに会って話を聞きたいのですが、ゆうじさんは「都合が悪い・体調が悪い」等の理由でなかなか会ってもらえないでいます。**

**そこで上司のフクシマさんはゆうじさんと会い「担当者会議の時、どのような話し合いが行われましたか？」と尋ねた。ゆうじさんの話の内容は、イワキ相談担当職員は、私の意思をなるべく尊重したい、ということで会議を開き、参加者の協力を依頼する内容であったことがわかりました。その旨が、会議の冒頭に説明され、それぞれの立場から意見が述べられた。弟夫婦から「兄の希望はなるべく尊重したいけど、現在施設で不自由なく生活しているのに、何故施設から地域に出たいのか？地域に出て行く場合には、施設にいるときよりも経済的に負担が大きくなるのではないのか、現在私たちには経済的に兄を支える余裕がない」ことが話された。市役所の障害担当職員からは、「現在、市で管理している公営の障害者住宅はふさがっていること、年金と市で手当てできる制度の説明等」が話された。全体として、ゆうじさんが地域に出て行くことは尊重するが、課題も大きいことが改めて確認されたような感じであったイワキ相談支援員は「ゆうじさんはどんな気持ちなの？」と何度も聞いてきた。「おそらくボクの決意が固いことを全体に知らせたい、という意図だったと思ったのですが、このような状況で自分の意思だけを表明してもと思い、結局何も言えなかった。」と話してくれた。**

**フクシマさんはイワキさんと面接し、今後どのようにしていきたいのか、話を聞いた。イワキさんは「なんとかゆうじさんとの関係を改善し、ゆうじさんの地域移行のお手伝いをしたい。」と話してくれた。しかし、ゆうじさんの現状を考え、担当をフタバさんに変えることを決め、今後もゆうじさんの事例について、一緒に考えていく意味でもイワキさんとの面談を続けていくことも決めました。**

2024年度相談支援従事者指導者養成研修〈人材育成コース〉より引用　一部浄土が改変